

## 私のふくい探訪

福井の  
活力で未来へ

今年2月に福井市を訪問した。日本商工会議所会頭として

地方創生の議論をする中で、さらには委員長をつとめた「選択する未来」委員会において人口減少問題や地方活性化を審議する中で、福井県は活力ある地域の代表としてたびたび紹介されていた。出生率、低失業率、女性の有業率、平均寿命など福井県の全国トップレベルのデータには触れていたが、今回の訪問で、自分の目で躍動する福井を見ることができ、百聞は一見にしかずを痛感することとなった。

福井を代表する企業であるセーレン(株)では、高付加価値製

品を国内で生産し、海外マーケットにも積極的に輸出することで高い成長を実現するとともに、地元にも多くの雇用を産み出していった。地方創生は、民間企業の活力向上と雇用の創出が一番の鍵となるが、その好事例を目の当たりにした。

また、恐竜博物館では、数々の創意工夫により、魅力あふれる類まれな博物館を実現し、多くの観光客の集客に成功していた。地方創生は、何よりもその地方が、知恵を絞り、持てる資産を最大活用することが成功の基本

であることを再認識することになった。

今回、東尋坊や曹洞宗大本山永平寺など、福井の誇る豊かな自然と文化を体感するとともに、越前カニも堪能することができた。幸運にもベストシーズンだったこともあり、その美味には正直驚かされた。和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたが、日本には文字通り世界に誇れる「食文化」があるのだと感心するとともに、誇らしい気持ちにさせられた。

我が国は、長く続いたデフレ



日本商工会議所会頭

みむら あきお

## 三村 明夫

1963年東京大学卒業後、富士製鐵(株)入社。1972年ハーバード大学大学院ビジネススクール卒業。2003年新日本製鐵(株)代表取締役社長、2008年代表取締役会長。2012年新日鐵住金(株)取締役相談役、2013年相談役名誉会長。2013年11月より日本商工会議所会頭。

から、ようやく緩やかなインフレによる成長経済へと大きく転換しようとしている。その一方、「急速な人口減少」と「地方疲弊の深刻化」という困難な構造課題に直面している。あらゆる関係者が危機感を共有し、時間軸をもつて一体的な取り組みを推進しなければならぬ。しかし、いたずらに悲観的になる必要はない。悲観論からは、諦めしか生まれないが、危機感の強さは、課題の困難さを直視しつつも、前に進むエネルギーを生み出す。総力を結集して取り組み、必ず明るい未来を築くことはできるはずだ。今回、福井県における様々な取り組みを通じて、未来への光明を垣間見ることができた。こうした事例が全国で着実に増えていくことを期待したい。

エネルギー  とこと 

原発の運転により発生した使用済み核燃料の処理・処分は、避けて通れない課題です。これまで長年にわたり電力供給の恩恵を受けてきた消費地も自らの問題として解決に取り組むことが重要です。

福井県経済団体連合会 会長 **川田 達男**

福井県環境・エネルギー懇話会

〒918-8004 福井市西木田 2-8-1  
福井商工会議所ビル 6F

▶バックナンバーはコチラから

福井県環境・エネルギー懇話会

次回掲載は

**内田 幸雄**氏 7月10日(金)掲載予定

※掲載日は前後する場合がございます。  
ご了承ください。